



ご挨拶

全国高等学校国語教育研究連合会会長

(東京都立広尾高等学校長)

佐藤 和彦

先生方、おはようございます。全国高等学校国語教育研究連合会、会長の佐藤和彦でございます。今年度も引き続き、どうぞよろしくお願いをいたします。

大会の開会にあたり、まずは七月の九州北部豪雨で被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げますとともに、早期の復興を祈念いたします。

さて、「国語教師のアクティブ・ラーニング」主体的・対話的で深い学びの実現」を主題に、全国高等学校国語教育研究連合会第五十回研究大会兵庫大会を、兵庫県高等学校教育研究会国語部会七十周年記念秋季研究協議会を兼ねまして、本日より、神戸市を中心に開催いたします。本会主催の研究大会が、大きな節目となる半世紀を迎えることができましたのも、「一人の成果をすべての成果に」という本会が掲げる指針のもと、全国の先生方が、その授業実践や研究成果を、脈々と引き継がれてきた賜物であると感謝いたします。そして、今大会の開催に当たり、兵庫県立加古川西高等学校の浅井憲一校長先生を中心とした、兵庫県高等学校教育研究会国語部会、そして、兵庫県立長田高等学校の小山智久校長先生を中心とした、兵庫大会実行委員会、それぞれの先生方の御尽力に対しましても、心より御礼を申し上げます。重ねて、兵庫県での十二年ぶり五回目となる研究大会開催の決定に際しまして、お骨折りをいただきました、秋田久子先生、赤松久美子先生にも、この場をお借りして御礼を申し上げます。本場にありがとうございます。

今大会も、実行委員会の先生方のお力の結集により、内容の充実が実感できます。総会の後には、文部科学省初等中等教育局視学官の大滝一登先生より、御講話をいただきます。現在も作業が進行している、高等学校国語科の学習指導要領の改訂に関するお話も、お伺いできると思われ、二〇三〇年以降を見据えた、国語科教育の確かな指標になるものと期待いたします。記念講演では、落語家の桂米團治先生に、「父、米朝を語る」という演題で、お話をいただきます。上方が育んだ伝統や文化についての我々参加者の理解も、一層深まるものと思われ。分科会では、五人の先生方を講師にお迎えし、それぞれの御専門を踏まえたお話を頂戴したり、ワークショップで参加者が研鑽を深めたりすることを楽しみにしております。明日の午前は、分科会として、県内の公私立の八校を会場に、公開授業と研究発表・研究協議を予定しております。そして、午後には、兵庫文学の縁の地を巡検する研修も用意されております。我が国の伝統的な言語文化としての文学作品の意義や価値について、再認識する機会になると思われ。

さて、本年の三月に告示された小学校と中学校の学習指導要領の国語科では、育成すべき資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理しています。あわせて、資質・能力を育成するために、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることの必要性も示しています。この「言葉による見方・考え方」とは、国語科の教科の特質に応じた「見方・考え方」でもあります。今大会の主題にもあります、アクティブ・ラーニングの視点を持った、「深い学び」の実現には不可欠なものです。今大会が目指すものは、その「深い学び」をはじめ、「主体的な学び」や「対話的な学び」などを通して、学びの質を高める授業改善です。全国から多数お集まりいただいた先生方の、明日からの指導と評価の改善に資することを、切に願っております。

最後になりましたが、文部科学省、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県立中学高等学校連合会、兵庫県立学校長協会、兵庫県市立高等学校校長会、兵庫県学校厚生会をはじめ、多くの皆さま方から、今大会への御支援を賜りましたことに、衷心より感謝いたしまして、挨拶いたします。